

国際会議とFITの2案

鯉渕 (NII)

前へ

- 成果の公知が動画サイトで効果的にできてしまう時代
 - **教育面での価値**が必要
- 労力をできるかぎりプログラム編成と会議自体へ
 - **オーガナイズグ疲れ**: 船頭を多くし船山にのぼる
 - 会議のクオリティ保証

案1:国際会議CANDAR TPCに尽力

- IEEE デジタルライブラリ出版
 - **教育面: メインセッション落ちた論文も併設WSで発表の可能性**
 - 技報でおわっていた発表がIEEE Exploreへ
 - 様々な表彰
- CPSY/ARCはTechnically cosponsored
- CANDAR2015の参加者200名、のべ133件の発表
 - メインセッションは採択率33%(90件投稿)
 - 基調講演は湊先生@北大
- CANDAR2016は 11.22-25 (7回目)
 - <http://is-candar.org/>
- **オーガナイズは中野先生(CPSY副委員長)@広大**
 - IEEEとのネゴ、VISA、LA、会計、、、
 - 運営組織は小さく、会議自体は活発に
- 詳細は、中野他 開催報告 (国際会議CANDAR2015)電子情報通信学会情報・システムソサイエティ誌, 第20巻第4号 (通巻81号), p.25
WEBからダウンロード可能

案2: 日本語開催なら FIT

- FIT は「考える会」の趣旨を満たしているとおもう
 - <http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2016/>
- **教育面: FITは W.J.Dally講演@2015など、学生に視野を広げる良い機会**
 - 隣接分野のFIT参加者と出会うチャンス
 - 1000人規模 2016.9.7-9 @ 富山大学
- **オーガナイズはFIT組織委員会**
 - 様々な形式でのイベント、発表形式を受け入れ
 - 天野先生@FIT2016実行委員長に相談可能
 - スケールメリットで参加費は1万円